

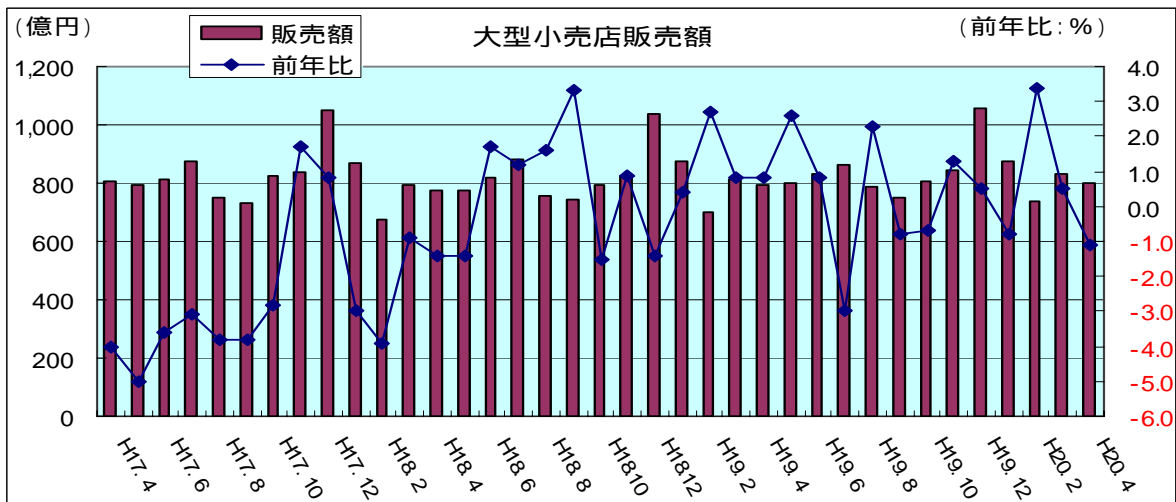
# 最近の経済情勢

平成20年7月11日  
千葉県商工労働部経済政策課

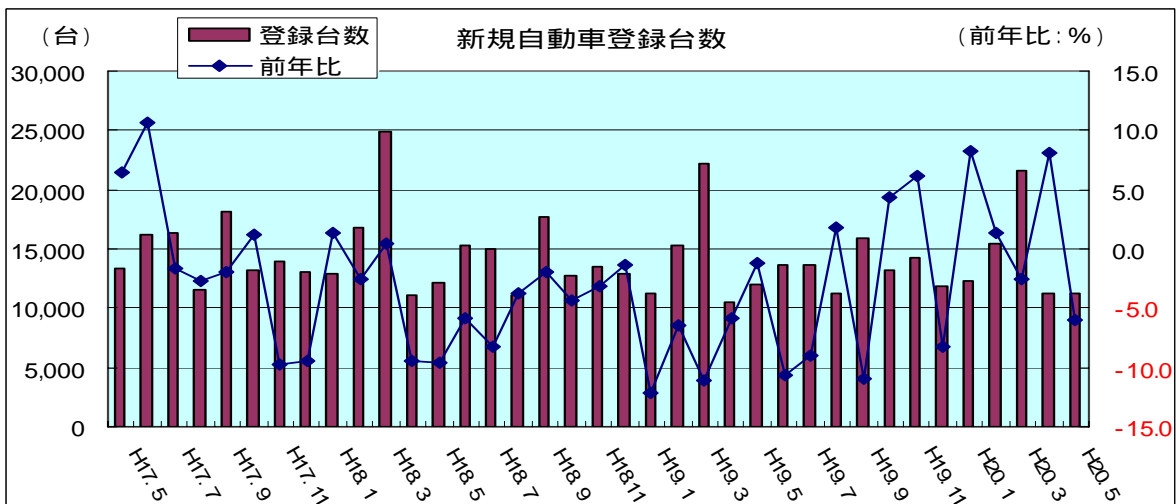
## 1 主要経済指標等でみた県内の経済情勢

県内の経済情勢は、公共工事請負金額や貸出残高が前年同月比で伸びる一方、新設住宅着工戸数や鉱工業生産指数などは前年度より減少しており、景気回復のテンポは足踏み状態にあるが、一部に弱い動きがみられる。

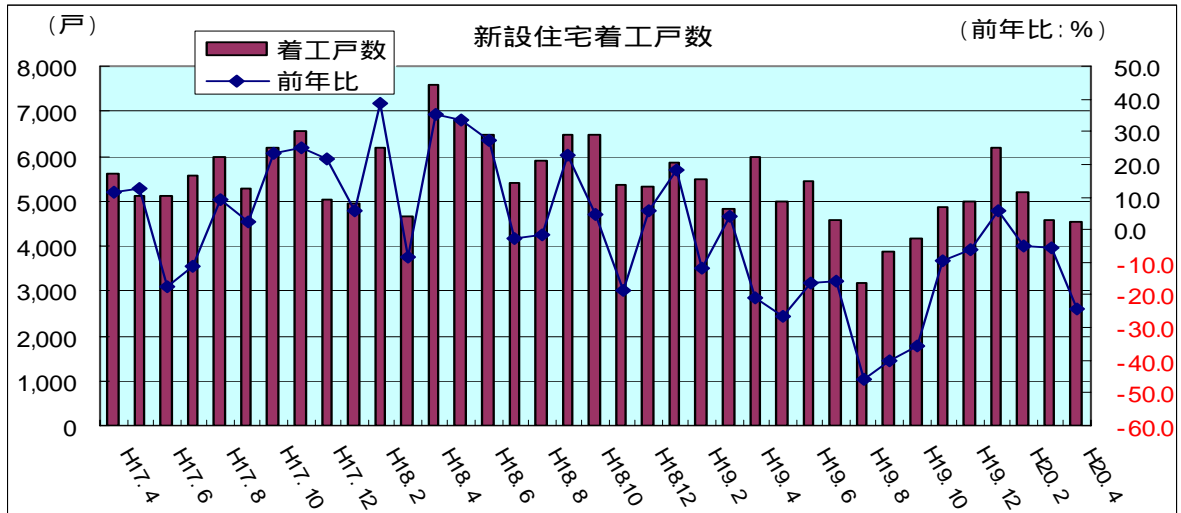
大型小売店販売額（4月）は799億円で、販売額合計の前年同月比は増加となった（0.6%増）。種類別では、百貨店が3.9%減、スーパーが2.5%増となっている。店舗調整後の販売額は、前年同月比1.1%減となっている。



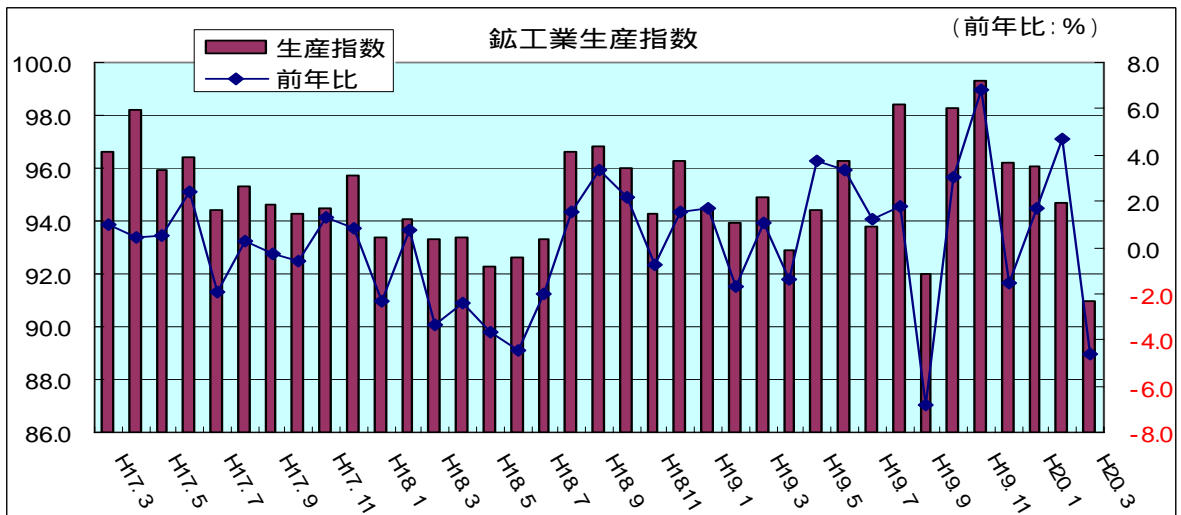
新規自動車登録台数（5月）は、11,260台であり、前年同月を下回った。車種別に見ると、小型乗用車、小型四輪貨物等で前年同月を下回った。



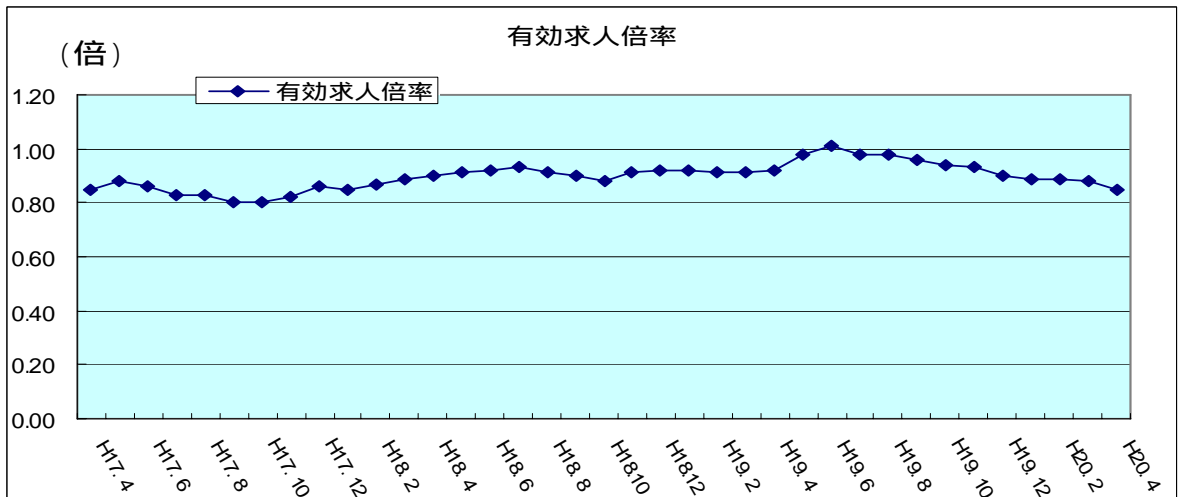
新設住宅着工戸数（4月）は、4,527戸で、前年同月比24.3%減となった。



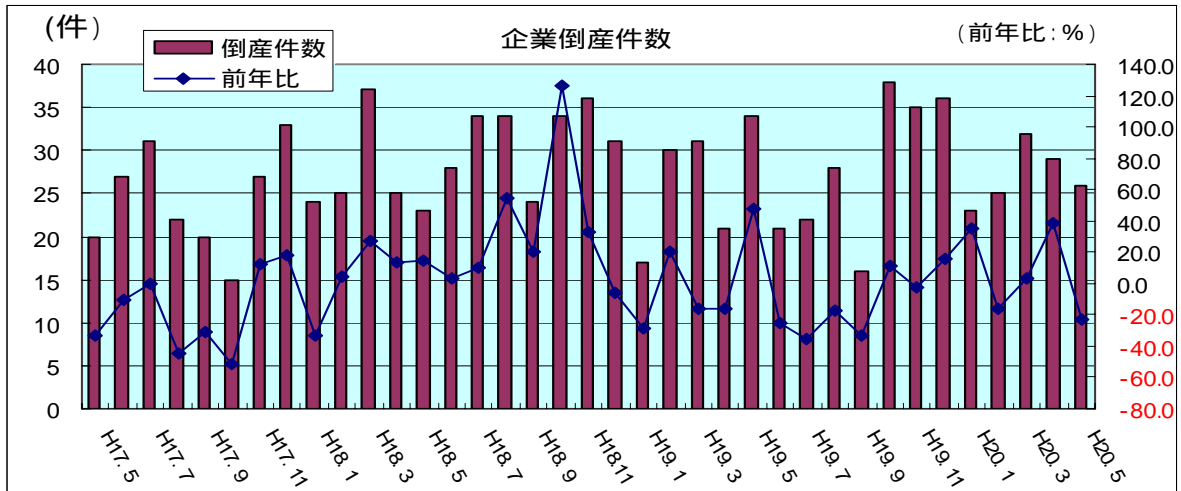
鉱工業生産指数（3月）は、前月比で3.9%減、前年同月比で4.6%減となった。



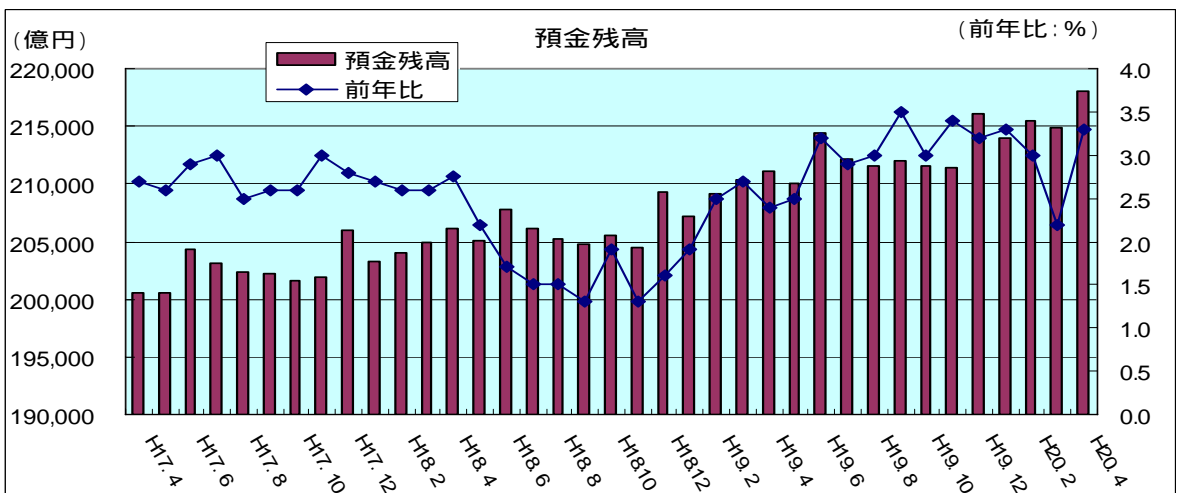
有効求人倍率（4月）は、0.85倍と、前月と比べ0.03ポイント下回った。南関東における完全失業率は4.2%と、前月と比べ0.4ポイント上回った。



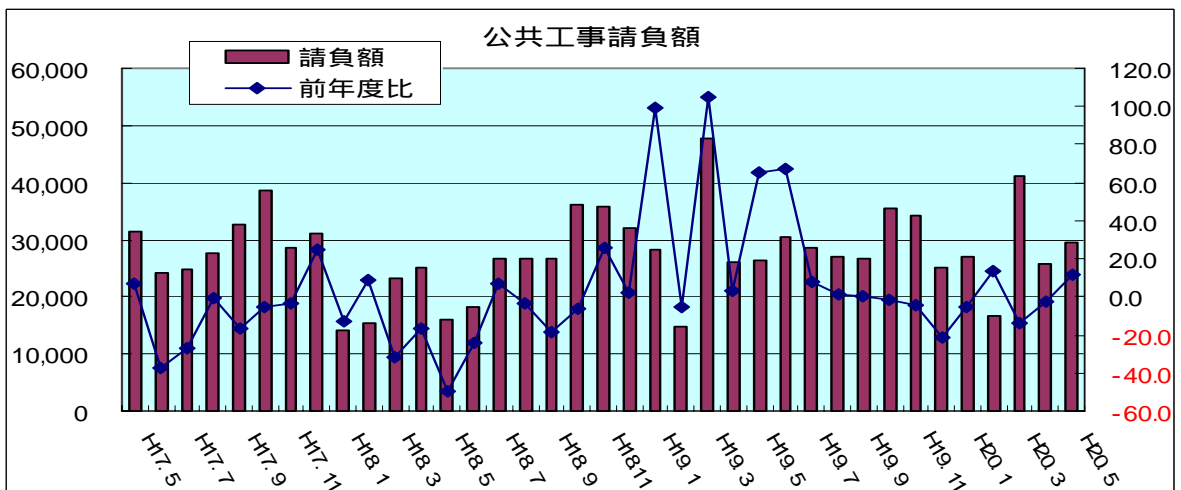
**企業倒産件数**（5月、負債総額1千万円以上）は、26件で、前年同月比は23.5%の減少となった。負債総額は、47億3,500万円となった。



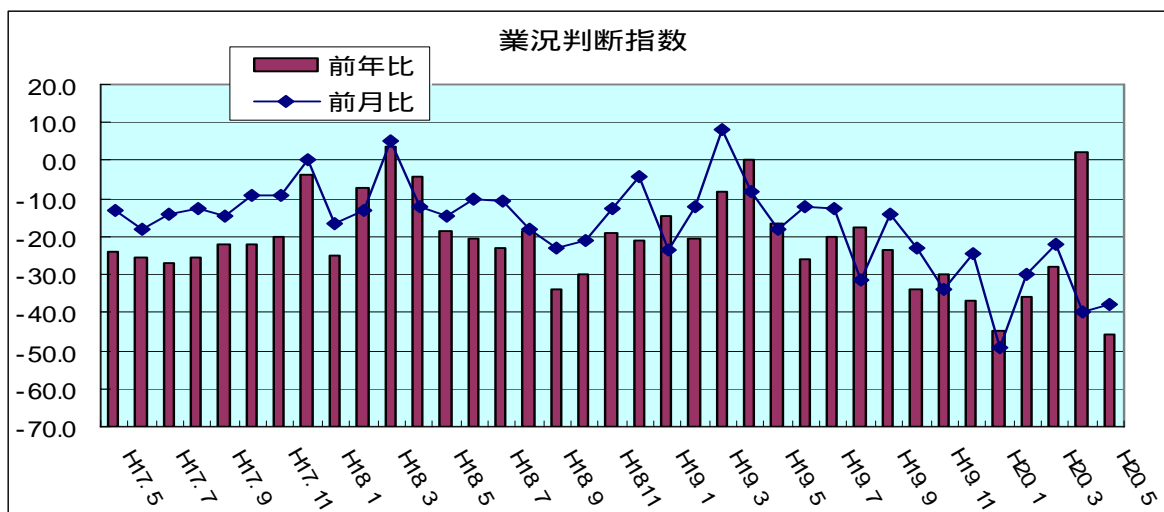
**金融情勢**（4月）は、預金残高は21兆7,982億円で、前年同月比3.3%増となっている。また、現金残高は、2,215億円で同比9.8%増、貸出残高については、11兆7,247億円で同比1.8%増となった。



**公共工事請負額**（5月）は、248件と前年同月比14.5%減であり、請負金額は294億円で、前年同月比11.5%増となった。



県内中小企業の業況判断指数（5月分・千葉県中小企業団体中央会調査）は、前月比が改善する一方、前年同月比は悪化している。



## 2 「月例経済報告」総論（6月16日内閣府発表より）

（我が国経済の基調判断）

景気回復は足踏み状態にあるが、このところ一部に弱い動きがみられる。

- ・ 輸出、生産は、このところ弱含んでいる。
- ・ 企業収益は、減少している。設備投資は、おおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は、厳しさが残るなかで、改善に足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は、おおむね横ばいとなっている。

先行きについては、アメリカ経済が持ち直すにつれ、輸出が増加基調となり、景気は緩やかに回復していくと期待される。ただし、サブプライム住宅ローン問題を背景とするアメリカの景気後退懸念や株式・為替市場の変動、原油価格の動向等から、景気の下振れリスクが高まっていることに留意する必要がある。

（政策の基本的態度）

6月10日、経済財政諮問会議において、海外との連携を強め、すべての人が能力を発揮できる社会を構築すること等によって成長を持続させるため、「経済成長戦略」を取りまとめた。政府は、本戦略を踏まえ日本経済の成長力を強化するとともに、豊かで安心できる国民生活を実現するための経済財政改革の道筋を示す「基本方針2008」（仮称）を取りまとめる。

民間需要主導の持続的な成長を図るとともに、これと両立する安定的な物価上昇率を定着させるため、政府と日本銀行は、「経済財政改革の基本方針2007」に示されたマクロ経済運営に関する基本的視点を共有し、政策運営を行う。